

知事記者会見の概要

日 時：令和4年7月20日(水) 11:00～11:45

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「「明るいやまがた、夏の安全県民運動」の実施について

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 豪雨災害への対策について
- (3) 安倍晋三元首相の国葬について
- (4) 旧統一教会と国会議員の関わりについて

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。まずは、新型コロナについて申し上げます。

本日公表の新規感染者数ですが、本県で過去最多となる 581 名となりました。581 名です。これは、2 月 3 日の 350 名を大きく更新する感染者数であります。ある程度、予想はしておりましたけれども、衝撃を持って受け止めているところです。

重症者はおりませんが、病床使用率も 30.5%とじわじわと上昇しておりまして、自宅療養者数も 2,553 人と過去最多となりました。感染が急激に拡大をしております。昨日も申し上げましたけれども、本県も第 7 波に入ったと捉えており、非常に強い危機感を持っているところです。

県としましては、昨日、新型コロナの本部員会議を開催し、県内第 7 波への対策として、最大限の警戒をしながら、可能な限り日常生活を取り戻すため、自宅療養者への支援体制の強化や、中小企業等への事業継続への支援を行うとともに、無料 PCR 等検査を活用した陽性者の早期発見、3 回目・4 回目ワクチン接種の推進、効果的な換気の励行など、医療提供体制がひっ迫しないよう基本的な感染防止対策の徹底に取り組むよう決定したところであります。

また、感染者の増加に伴い、保健所における業務のひっ迫が相当懸念されますので、業務の一部委託のほか、総合支庁及び本庁による応援体制の強化、さらには市町村や関係機関に協力をお願いするなど、保健所体制の強化を図ってまいります。

まずは、県内の感染状況を注視しながら、昨日決定した対策にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

これから夏休みの時期を迎え、人と人とが接触する機会が多くなることが予想されます。県民の皆様には、引き続き、熱中症に注意をしながら、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用や、換気の励行、ゼロ密、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底を改めてお願いいたします。

併せまして、屋内ではこまめに換気をしながら、適切に冷房を使用してください。屋外では会話をしない場合はマスクを外すなど、熱中症にも十分注意していただきますようお願いいたします。

また、帰省や旅行などで県外と往来する場合は、基本的な感染防止対策を徹底し、今後、新たに県内主要駅周辺に設置する臨時の無料抗原定性検査所を活用するなど、「うつさない」、「うつらない」行動を徹底していただくようお願いをいたします。

それから次に、全国的な大雨の状況について申し上げます。

全国では、7 月 15 日から各地で大雨被害が相次いでおり、15 日から 16 日にかけての大雨では、宮城県で川の決壊などによる浸水被害が発生しました。その後も、18 日から 19 日にかけて、九州・中国地方で線状降水帯が発生するなど、梅雨末期のような大雨となっております。

ります。

まずもって、今回被害に遭われました皆様に、心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈りをいたします。

本県におきましても、16日から18日にかけて、大雨警報、洪水警報、更には、土砂災害警戒情報も発表されました。

このため、当日は、警戒配備体制を取り、河川の水位や被害情報の収集を行いました。また、19日以降も、まとまった雨が予想されたことから、SNSを活用し、県民の皆様に警戒を呼びかけたところでもあります。

現在のところ、人的被害、建物被害の報告はありませんが、川西町の県管理道路1路線で路肩欠損、また、同じ川西町で斜面の崩壊を1件確認しております。

なお、本日も、鶴岡市に大雨警報が発表されておりますので、引き続き、気象情報等にご留意いただき、警戒に努めていただきますようお願いいたします。

今後も、台風に伴う大雨の影響などによる災害の発生が危惧されます。県民の皆様には、ご自身が住んでいる地域の避難所や避難経路の確認など、日頃から災害に備えていただきますよう、お願いいたします。

次に、「やまがた夏旅キャンペーン」の延長について申し上げます。

宿泊・日帰り旅行が割引になる北海道・東北各県・新潟県を対象とした「やまがた夏旅キャンペーン」につきまして、8月31日まで延長することといたしました。

なお、政府から発表のありました、7月前半から実施するとされていた「全国を対象とした観光需要喚起策」につきましては、延期となりました。引き続き、今後の感染状況を見極めていくとのことでもあります。

本格的な夏の観光シーズンとなりましたので、引き続き基本的な感染防止対策を徹底し、また「新しい旅のエチケット」をお守りいただきながら、各地の夏祭りなど、夏の山形をお楽しみいただきたいと思います。

☆発表事項

知事

それから、発表が1点ございます。「“明るいやまがた、夏の安全県民運動”について申し上げます。

今月22日から8月21日までの1か月間、「“明るいやまがた、夏の安全県民運動”を実施いたします。

夏は、暑さによる気のゆるみや疲れなどから、交通事故や、海・山・川での事故の発生、さらには、夏休みの開放感から青少年の非行の増加や犯罪被害の発生が懸念されます。

このような事故を防止するとともに、青少年の健全な育成を図るため、「青少年の健全育成といじめ・非行及び犯罪被害防止」をはじめとする4つの重点項目を掲げ、新型コロナ対

策に万全を期しながら、この運動を通して、安全で明るい山形県づくりを展開してまいります。

運動初日の7月22日、午前10時から、県庁講堂におきまして、出発式を行います。

県民の皆様にも、本運動における積極的な取組みと、ご協力をよろしくお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

NHK、金敷です。よろしくお願いいたします。

冒頭、知事からも発言ありましたが、新規の感染者が581人ということで、過去最多を大幅に上回る新規感染者となりました。改めてもう一度、申し訳ございません。知事の所見をお伺いさせていただきます。

知事

そうですね、三連休の後ということもあって、ある程度予想はしていたということがあります。それで、先週の土曜日には、本部員のメンバーとともに、打ち合わせをしておいたところでもあります。来週はおそらく、300、400、500名といった数字が出てくるのではないかということで、もう臨戦態勢を取ろうというようなことで、打ち合わせをしたところでありましたけれども、本日ですね、581名の新規感染者が確認されたということで、本当にこれまでの350名という、過去最高だった数字を大幅に上回る581名となったということで、一気にここまで跳ね上がったということについては、衝撃を持って受け止めているところでもあります。まずしっかりとこれを乗り切っていかなければならないという思いでいっぱいあります。

昨日の臨時記者会見でも申し上げましたけれども、無症状や軽症者の方が多い、子どもさんの感染者数も多いというようなことで、自宅療養者が大きく増えるだろうというようなことも予想して、自宅療養者への支援強化といったことも対策としてお示しをいたしました。そして、医師会・薬剤師会にですね、さらなる連携強化、ご協力をお願いするということと、また、保健所体制というの、このままの感染者数が何日も続きますと、業務がひっ迫するのは目に見えておりますので、県庁は一丸となって、全員体制というようなことで、しっかり応援体制を取るとということと、あと市町村など、関係団体からのですね、ご協力もいただくというようなことで、なんとしてでも、ここは乗り切っていきたいというふうに思っているところでもあります。

記者

ありがとうございます。昨日の会見でも触れている部分であって大変恐縮なんですけど、今日これだけ一気に人数が増えました。昨日の会見では、行動制限はとりあえず行わないとい

うことでお話があったと思いますが、そのお考えは今も変わらないでしょうか。

知事

そうですね、現時点では変わっておりません。やはり無症状や軽症の方が多いというような実態と聞いておりますので、今すぐ行動制限ということは考えていないところでございます。

記者

わかりました、ありがとうございます。知事の冒頭の話にもございましたが、これから夏休みのシーズンに入ります。学校とかで、小中学校が中心だと思うんですけど、小中学校への対応だとか、お子さん・ご家庭への呼びかけ、あと熱中症の対策との両立ですね、どう考えているか、改めて伺えますでしょうか。

知事

はい。学校というところではですね、教育委員会でしっかりと対処をしていくということでもあります。子ども達の部活ということもありますけれども、感染対策をしっかりとしながら、また、県外との交流試合とか、そういった時には、無料PCR検査と検査キットなども大いに活用して、しっかりと感染対策をしながら、行動を制限するのではなく、いかにして活動を出るようになるかというようなところで取り組んでいくと。例えば、部活とか試合の時にはですね、責任者を配置するとか、そういったことを考えているようでもありますので、教育委員会でしっかりと対処をしてくれるものというふうに思っているところでございます。

熱中症はですね、まだ7月であって、これから8月も真夏でありますので、大変心配をしているところです。冒頭申し上げましたけれども、屋内にあっては、換気を励行しながらですけれども、冷房をしっかりと適切に使用していただきたいというふうに思っていますし、屋外では、会話をしなければマスクは外すといったようなことをですね、柔軟に行動していただきたいというふうに思っております。

まず、その熱中症のリスクというのは非常に大きいものですから、マスクは必ずしなければいけないというようなことではなく、屋外にあっては、人との会話をしなければ外してもいいんだというようなことで、やはり県民の皆さんが、子ども達も大人もですね、熱中症にならないように気を付けていただきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。コロナ関係もう1点お願いします。これまで感染者が拡大してくると、公共施設の利用制限をかけたかというのもあったかと思うんですけども、今のところこちらに関してはいかがでしょうか。

知事

そうですね。公共施設の利用制限まではまだ検討していないところでありますけれども、これだけ増えてきますと、もちろん基本的な感染対策を徹底するというに尽きるとは思いますが、こういったことができるのか、しっかりと内部で話し合っ、議論して検討していきたいというふうに思います。できる限り制限はしたくないのでありますけれども、これだけ増えてくると、何かできることがあるのかもしれないので、そこはちょっと議論をしてみたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

コロナはこの辺にいたしまして、災害の件で、知事のお話でも冒頭ありましたが、県内に限らず各地で大雨の被害が出ております。県内でも2年前に最上川の氾濫等ありまして、まずは最上川での豪雨災害から2年になるということの所見をいただきたいのですが。

知事

令和2年の7月だったと思っておりますけれども、全国的にも大変な大雨でありましたが、本県でも大変な大雨となりまして、県内全域を流れている最上川がですね、氾濫をいたしました。本当に大きな被害が発生したところであります。それで、流域治水という新たな概念のもとに国・県、そして市町村、あらゆる関係者が一体となって、ソフト・ハード両面です、一緒になって取り組んでいくということを決めて進めてきたという経緯があります。

それで、輪中堤というようなことも検討してその後進んでおり、つながったというようなことも聞いておりますので、近日中に機会を捉えて、ちょっとそこを見せてもらいたいなと思っております。

まずもって県民の皆さんがその地域、それぞれの地域で安心して安全に暮らしていただくということが大事だと思っておりますので、流域治水をしっかりと進めていきたいというふうに思っているところです。

今年もですね、まだ、梅雨は明けたとは言っても、ここに来て本当に全国的に線状降水帯といったことが発生したりして、まだまだ安心できない状況だと捉えております。コロナも大変な状況でありますけれども、雨もどうなっていくのかということは大変私としてはそれも心配でありますので、県と市町村と、本当に連携を強くして県民の皆さんの安全・安心を守っていきたいというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。すいません、今の話とも重複するかもしれないのですが、これ

だけ雨が続けている状況ですので、県としての対策、防災の強化といったところで何かお考えがあれば、最後お伺いしたいのですが。

知事

防災くらし安心部はしっかりと取り組んでいると思っておりますけれども、やはり、「減災」ということが最も現実的なことになるかと思っておりますし、あと、防災くらし安心部が取り組んでいるということで承知をしているのは、やはり、空振りを恐れなくていいですね、しっかりと避難という情報を市町村で住民の皆さんにその情報をしっかりと流してほしいということを申し上げているところです。「空振りを恐れなくていい」ということですね。

あと、県民の皆様には、やはり大丈夫だと思わないで、明るいうちに避難をしていただくとか、そういったことを心がけていただきたいというふうに思っているところです。

記者

共同通信、阪口です。おはようございます。なかなか昨日の今日で、かなりコロナの新規感染者数、多いと思うのですがけれども、昨日も伺いましたけれども、種々の祭りであるとかですね、イベントごと、3年振りに開催が多いと思っておりますけれども、この状況になっても知事のお考えに変わらないか、もう一度力強いご表明があればお願いします。

知事

はい、そうですね。大変な状況にはなってきたんでありますけれども、感染防止対策を徹底しながら、そして医療、自宅療養も含んでの医療提供体制というものをしっかりと確保しながら、できる限り日常に近い生活を取り戻していただくということがやはり大事ではないかなというふうに思っています。

県民の皆さんもですね、本当につい最近までは、全国で最も感染率が低いというようなところまで、本当に一生懸命取り組んでくださっていたなというふうに思っております。そしてまた、おそらくですね、親しい人達とも3年会っていないとかですね、それから地域の大切な絆ともなるお祭りであったり、いろいろな行事、それも我慢してきたというようなことがあると思っております。BA.5は、これは油断してはいけないけれども、感染対策をしっかりとしながら、種々の行事・イベントといったことをですね、行っていただくという方向で現時点も考えているところでございます。

ただ、本当に感染対策だけはしっかりとさせていただきたい。そして早期発見の検査というものもですね、PCR検査でありましたり、あと検査キットを使っての検査でありましたり、大いに活用していただきながら、諸々の県民の皆さんの活力源となるような社会活動・教育活動、そういったことを取り組んでいただければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。すいません、1点、ちょっとガラッと話が変わるんですけども、安倍元首相の件ですね、今、国葬について与野党から様々意見が出ていると思いますけれども、知事としてどのようにお考えになるか、ご所見を伺えればと思います。

知事

うーん、そうですね。様々なご意見があるのは承知をしております。国会でいろいろとですね、ご意見があるというようなことも承知をしておりますし、民間でもいろいろなご意見があるかと思っています。正直言ってですね、適切なかどうかというようなところまで私の立場で申し上げることはありません。

ただ、私の印象で申し上げれば、安倍元首相はですね、本当に国内外で活躍された方だったなというふうに思っています。本当に記憶を辿っても、諸外国との外交というような面ではですね、本当に歴史に残るくらいの様々なご活躍をしていただいて、日本の存在感というものを高めていただいたのではないかなというふうな印象を私は持っていますので、政府がそういうふうに、国葬という形でお見送りするというようなことはですね、私としては、そういうお考えなのかというようなことで、それに対していいか悪いかというようなことまでは申し上げることはないです。

記者

ありがとうございます。

記者

すいません、山形新聞、田中です。コロナで、今日過去最多581人ということですが、県内も第7波に入ったというご認識でしたが、この数字というのは、まだ上っていく途上の数字だというふうにお考えになっていますか。

知事

そうですね。予測というのはなかなかしづらいというふうに思っています。上っていく可能性もあると思っています。ただ今日の数字というのは、3連休の後の数字というようなことで、大きくはなるだろうとは予想はしておりました。ですが、これから更に上っていくかどうかというところまでは正直言って分かりません。ただこれに近い数字が数日に渡って続くのではないかというふうには思っております。例えば500という数字が1週間続いた場合というようなことを考えて対処しなければならないというようなことは先週の打ち合わせの時に私は申し上げました。そうすると自宅療養者が3千人、4千人、5千人というふうに膨らんでいくことが予想されましたので、そこに対する支援体制は強化しなければならない。また、医師会・薬剤師会との連携強化、それから保健所ですね、体制も大

幅に強化していかなければ大変なことになってしまうというようなことも考えていたところでもあります。

まず本当に、実際にそういう状況になってきたなという思いでいっぱいです。私も、赤十字大会（補足：7月21日出席予定であった山形県赤十字大会）がですね、ちょっと延期になりましたので、私としてやはり現場を少し見せてもらって、なお対処方法を考えていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。第6波の特徴として、知事はクラスターについて集中的に対策を取られました。介護施設であるとか学校であるとかですね、保育施設で。今回のBA.5は、想定よりもかなり感染が早いと、全国的にそうなっているかと思いますが、県内も4割くらい置き換わりになってきたということで、このBA.5の特徴が少し見えてきているところで、第7波に向けてですね、抑止に向けて、集中的に対策を取られていくところほどの辺りだというふうに県としてはお考えになって取り組まれるのでしょうか。

知事

そうですね、BA.5についての海外での知見をお聞きしたところ、感染力は強いけれども重症者は少ないというようなことであつたと思いますし、あと、免疫をすり抜ける、すり抜けの名人だというようなことも医療関係者からお聞きをしたところでもあります。

そういったことを考えますとですね、感染力が強い、要するに感染拡大するスピードが速いというようなことだと思っています。それについて何ができるかということでもありますけども、やはり早期発見で早期療養、これが一つには言えると思いますし、もう一つはやっぱり重症化を防ぐというような意味でもワクチン接種ですね、3回目のワクチンがまだの方、1回目、2回目でも今からでも遅くはありません。重症化を防ぐということには有効だと聞いておりますので、3回目のワクチンをしっかり接種していただく、そして高齢者と慢性疾患のある方、また医療従事者と介護従事者の方々には4回目接種ということもできるだけ早く受けていただくというようなこと、ここはしっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

あと、やっぱり第何波であつても共通しているのは一人ひとりの「うつさない」、「うつらない」という行動ですね。その基本的な感染防止対策、これを徹底するということはやっぱり不変で大事なことではないかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。最後にもう1点だけ。今、知事もおっしゃられた4回目接種の医療関係従事者、介護職の方々を対象になると、これは全国知事会でも知事が、きちんと明記すべきだということでご提言になっているかと思えます。

特にやっぱり医療提供体制のひっ迫であるとか、あと子どもの感染ですね、ここのスピードというのはなかなか速いもので、その4回目のワクチン接種の加速、(医療従事者、介護従事者を)接種対象に加えることによってどのように県としてその医療提供体制の維持をするのかであるとかですね、日常を取り戻す上では保育というのは欠かせないものでもあるので、どのようにその保育・幼稚園で、対策というものを取り組まれるのか改めて教えていただければと思います。

知事

はい。医療従事者と介護従事者というところでは、現場の方々からも「4回目の接種を受けたい」と希望される方が多いと聞いておりましたので、そこは本当に全国知事会を通して政府に要望を続けてきたところでもあります。

今般、そこがしっかり受け止めていただいて実施できるようになったということでもありますので、できるだけ早くですね、接種をしていただいて、医療現場の方が感染するとそれが医療のひっ迫に直結しますので、そこは本当に県民の皆さんのためにも早め早めに受けていただければというふうに思っているところです。

あと介護従事者のところは、高齢者の方々はその4回目接種ということが当初から言われておりましたけれども、介護施設の従事者は該当対象には入っておりませんでした。

ところがですね、やはりこのBA.5というのは免疫のすり抜けの名人だということでもありますし、介護従事者の方々にも4回目接種を受けていただいて、高齢者にうつったりするというようなことをできる限り防いでいただくということが大事だと思っていますので、やはりできるだけ早く4回目接種も受けていただいて、高齢者の方々も守っていただけるようにしたいというふうに思っています。

問題はその保育施設で、現場のお話を聞きますと、これ以上どんな打つ手があるんだろうというふうな、本当に悲鳴に似たような声を聞いているところでもあります。本当に一生懸命、感染対策を講じておられるようであります。ですけれども、子どもたちが動くわけではないんですが、大人からやはり子どもにうつってしまうというような状況でですね、どうやって子どもたちを守るかというようなことになってきます。

ただ、軽症者が多いというようなことは救いだと思っています。早期発見というのは、その子どもたちが検査というのはなかなか、PCRの検査キットもなかなか難しいと聞いておりますので、そこで保育に従事していらっしゃる方々とかですね、あるいはその親御さんには早期発見、早期療養というようなことをやはりしっかりと念頭に置いて、そこしかなかるか浮かばないかなというふうにも思っています。

ただ、保育従事者の方も4回目接種ですね、それもやっぱりしっかり含めていただいたほうが、少しでもやはり未然の防止につながるというふうには思っているところです。

記者

山形新聞の佐藤です。よろしくお願いいたします。

先ほど知事からありましたとおり、今日の感染者の公表が過去最多ということで、このまま例えば感染拡大が続いた場合ですね、社会活動を維持するということでも大きなその懸念が生じるのではないかなと思うんですけれども、例えば事業所に対しての、改めて感染予防対策と言いますか、例えばテレワークの導入であったり、あとは、職場での会合のあり方など、改めて今こういう状況にある中で職場、事業所に対しての要望というのを知事の言葉でお願いいたします。

知事

はい。本当にこれだけの新規感染者数となりますと、やはり由々しき事態だというふうに思っています。今、記者さんから事業所というお話がありましたけれども、本当にあらゆる手立てを動員してその感染対策をしっかりする、そして事業を継続するにはどういうふうにしていったらいいのかというようなことをですね、官民一体となって考えて、あらゆる手立てを講じていくということが大事だと思っています。

今お話に出てきましたそのテレワークをできる限り増やすとかですね、そういったことも有効な手立てかと思っております。ただ、それがすべての職場に通じることではありませんので、それぞれの職場でどういうことができるのかというようなことをですね、改めてやはり皆さん本当に全力でこれまでも取り組んでくださっていると思いますけれども、県庁の各部局ともまた今一度話し合いをし、議論をしまして、各業界にどういう呼びかけをしていくか、そういったことを取り組んでいきたいというふうに思っております。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

すいません、朝日新聞の小川です。

旧統一教会と与野党の国会議員の関係についてなんですけれども、報道などで寄付金や祝電などですね、数多くの接点が判明しているかと思うんですけれども、旧統一教会については法外な献金の問題などがですね、元信者の方から訴えで上がってきているかと思うんですが、知事の見解としてですね、国会議員がですね、こうした団体と関わりを持つことについてどのようにお考えかというのを、見解を教えてください。

知事

そうですね、今、記者さんがおっしゃいましたけれども、旧統一教会というところに関連した恨みというようなことを持たれた方がですね、安倍元首相を銃撃したというようなこと

は、報道でしか私は承知をしておりません。

国会でそういったことをしっかりと追及していくというようなこともやはり報道で承知をしているところでありますので、私の見解というようなところまではまだ行きませんで、どういった背景とかですね、どういった状況だったのかというようなことが明らかになっていくというようなところは注視していきたいというふうに思っています。

すいません、まっすぐな答えはできないんですけども、どういう風なことなのか、私もまだ事情かわからないようなところでちょっとコメントのしようがないと思っていますので、しっかりと今後どういった事情がですね、明るみに出てくるのかとか、そういったことは注視していきたいというふうに思っています。